

- す。
- 北限 (p.37) ……その植物が生えている一番北の端という意味です。  
西会津町はコウヤマキの生えている日本の一番北の端の土地ということになります。この用語は動物についてもつかわれます。
- 保護色 (p.52) ……動物の体の色や模様が、周囲の色と似ているため、他の動物に発見されにくいと考えられる場合をいいます。  
動物によっては周囲の色に、変化させることのできるものもあります。
- マグマ (p.62) ……地下深い所にあり、1000℃以上の高温の地熱により、液状になっているものをいいます。これが冷え固まって岩石や鉱物をつくります。
- 落葉樹 (p.6) ……おもに秋になると葉が散ってしまい、次の年になるとまた葉が出てくるような木のことをいいます。いろいろな落葉樹の混じって生えている林を落葉樹林といい、西会津町の山ではコナラ、ミズナラ、クリ、ホオノキ、等がまじって生えています。  
一度には落葉せず新しい葉と少しずつ入れかわりながら落葉し、一年中青々と葉の茂っている木のことを常緑樹といいます。マツ、スギのような針葉樹のほかにアオキ、ユキツバキなどの広葉樹があります。
- 卵胎生 (p.56) ……鳥や魚、カエルやヘビの仲間のよう卵を生んで子どもがかえってくるものを卵生、ウサギやイヌのように子どもを生むものを胎生といいます。  
卵を生んで子どもをふやす動物の仲間でありながら親の体の中で卵がかえって子どもが生まれ出るものを卵胎生といいます。
- 隆起 (p.65) ……海底や陸地などの地殻が広い範囲にわたってもり上がっていく現象をいいます。反対に下がっていくことを沈降といいます。
- 輪生 (p.20) ……3枚以上の葉が茎をとりまくようにしてつくことを輪生といいます。
- れき (p.58) ……川原などに見られるごろごろした石を礫といいます。丸いものや角ばっているもの、数mm程度のものから1mを越えるものなどいろいろあります。
- 露頭 (p.58) ……流水によってけずり取られたり、道路工事などで表土がけずり取られたりして、地層や岩はだが地表にあらわれている部分をいいます。



輪生